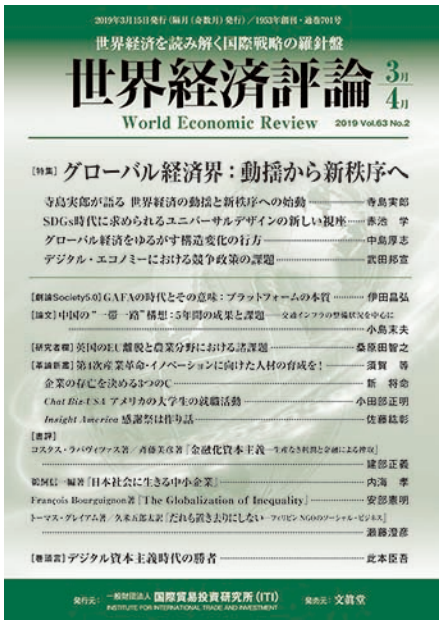
Back Number

本論文は

世界経済評論 2019 年 3/4 月号

(2019 年 3 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 **定期購読のご案内**

年間購読料
1,320円×6冊＝7,920円 ▶ **6,600円** 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 **読み放題!!**

世界経済評論　定期購読

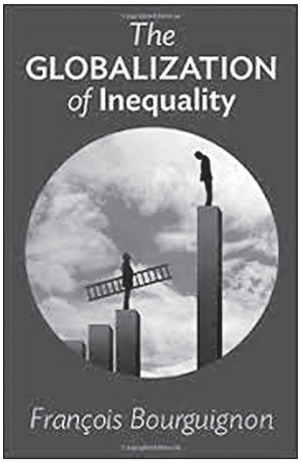
[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

The Globalization of Inequality

外務省経済局政策課企画官　安部 憲明



［著者］François Bourguignon
the Director of the Paris School of Economics
［発行］ Princeton Univ Pr; Reprint 版（2017/1）
［判型］ペーパーバック：210 ページ
［価格］1922 円より

僕らはこの本を「赤本」と呼び，重宝した。

2017 年，経済協力開発機構（OECD）の閣僚理事会は「グローバル化を機能させるために――すべての人々により良い生活を」をテーマに，グローバル化が格差を深刻化させるメカニズムの解明と提言づくりに取り組んだ。その半年前，OECD の書店の棚から何気なく手に取ったこの本と，OECD が議論用に配布する各種文書の筆遣いの見事な一致にパッと視界が開けた。エンジ色の本書の著者は，世銀チーフエコノミストも務めた経済学の泰斗。欧州の論壇でも OECD でも，成長と分配と格差の複雑な関係の究明に努めるこの第一人者の名前を聞かない日はない。

本書は，グローバル化の功罪を見極め，格差拡大のメカニズムを実証的に解明する労作だ。国家間よりも国内の格差がより深刻であること，賃金上昇と雇用から取り残されるのは所得の底辺層ではなく中間層であること，格差に対する事後救済と事前支援を巡る受益と負担のあり方などを丹念に論じる。フランスが，雇用保障や最低賃金法で労働者に手厚く，累進制の強い課税と社会保障を重視する従来の路線から，企業の競争力強化，教育や職業訓練による生産力向上，市場機能の発揮に転換する「マクロン改革」を先取りした主張も目を引く。自家薬籠の甲斐あって，日本代表団は，パナマ文書問題のような多国籍企業の不当な利得行為を防止する多国間枠組や企業統治の基準強化など，閣僚理事会の成果に大きく貢献した。

会合後，ブルギニョン先生をパリの研究室に訪ねた。経済効率や社会厚生を最大化する「正当な格差」は存在するかとの質問に，理論的には「ウィ」だが，格差の学問はそこまで進んでいないと冷静に認める一方，問題は，政治的閾値を超える格差，つまり，グローバル化という不可逆の趨勢から自国だけが局外たり得るという極端な利己主義を蔓延させ，極右と極左の情緒的な訴えを国民に信じ込ませている格差の実情だ，と熱を込めて難じた。本書で十分ふれなかった点として，デジタル経済の労働市場への影響，ベーシック・インカムの適否，中国の「新常態」という処方箋の格差面への効能などの応用問題への「傾向と対策」も論じてくれた。

2019 年に主要 7 か国（G7）会議の議長を務めるフランス政府は，昨年末，首脳を迎える保養地ビアリッツにすべての国の駐仏外交団を集め，「不平等との闘い」に正面から取り組むと宣言した。G7 本番でも，先生は請われて脚本を書くだろう。「赤本」の改訂版を出せば，ベストセラー間違いない。　（あべ　のりあき）